

平成 28 年度公益社団法人鹿児島県栄養士会事業報告

1. 事業実施報告

平成 28 年 4 月 1 日の診療報酬改定により、栄養食事指導料が 130 点から 260 点へ倍増されるという朗報は、管理栄養士の活躍が医療現場で強く期待されていることの象徴であり、国は医療費や介護費の削減を目的とした疾病予防対策を重要視しているためである。

期待通りの活動が実施されれば健康寿命の延伸にも繋がり、鹿児島県栄養士会の目的でもある「県民の健康の増進を図る」ことに直結する。

そのため会員の資質向上対策として鹿児島県栄養士会主催の研修会を 4 回、生涯教育研修会を 5 回実施した。

また、病院協議会及びに福祉協議会を中心に在宅栄養訪問指導に関連する各種研修会への参加を促し、鹿児島県栄養士会スポーツ栄養部会においては、情報交換並びに研修会を継続的に行った。

県民に対する公益事業である「県民公開講座」を南九州市で開催し、515 名の参加があり、「高血圧予防のための食生活」を栄養・食事の視点でわかりやすく理解することが出来たとの反響を得ることが出来た。

「管理栄養士によるクッキング講座」は毎月開催され、延べ 289 名の参加者があった。また「管理栄養士によるクッキング講座レシピ集」を発行し、「具体的で分かり易く実践的なツールとして本当に役に立った」との読者の声を得ることが出来た。

「栄養 110 番」をはじめ、「歯と口の健康週間事業」「小児糖尿病サマーキャンプ」「市民健康まつり」「全国糖尿病週間」など健康・栄養関連事業においてますます多職種との連携が加速され、鹿児島市慢性腎臓病（CKD）予防ネットワークにおいては、対応できる会員名簿を作成し要請に応える準備を整えた。

食生活の改善を促すための講習会、テレビでの料理番組や栄養指導など延べ 58 名の講師を派遣し、さまざまな機会です食事と栄養の専門知識を普及した。

また、「熊本地震」においては、約 1 カ月間に延べ 95 人の災害支援栄養士（JAD-DAT）及び会員が避難所での支援活動を行い、宇土市においては、鹿児島県医師会 JMAT に帯同し、栄養相談を実践した。

このような公益性の高い様々な社会活動が評価され、九州で初となる「災害時における栄養相談等の支援活動に関する協定書」を三反園訓知事との締結式をもって鹿児島県と締結することが出来た。

これらの活動は、管理栄養士・栄養士として社会的な使命を生きんとする公益社団法人鹿児島県栄養士会の会員の絆と友情の証である。

ますます多様化する時代・社会の要請に応える為には、実践的な知識・技術を習得するための「きめ細かな研修内容とシステムの構築」、「地域の特性に応じた活動」の検討が必要であることが理事会で確認された。